

【 117 】

氏名	浅 越 健 治
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3685号
学位授与の日付	平成14年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Numerical, morphological and phenotypic changes in Langerhans cells in the course of murine graft-versus-host disease (マウス移植片対宿主病におけるランゲルハンス細胞の数的、形 態的、表現型的变化の検討)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 岡田 茂 教授 谷本 光音

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

移植片対宿主病(GVHD)における表皮ランゲルハンス細胞(LC)の動態について検討した。BALB/c ヌードマウスに C57BL/6 マウスの T 細胞を静脈注射し GVHD を誘導した。LC の数的、形態的变化を表皮シートの蛍光抗体法で、アポトーシスの有無を TUNEL 法および annexin-V の結合能で、表現型の変化をフローサイトメトリーで、機能的变化を混合培養試験で検討した。アロ T 細胞を静脈注射後 5 日目に GVHD を発症し、LC は 6 日目より減少した。GVHD 誘導直後に大型となり樹状突起も顕著となったが、減少する直前には樹状突起は不明瞭となり類円形の形態を呈した。LC のアポトーシスは認められず、活性化マーカーは発現を増強した。2 次性表皮細胞リンパ球混合培養反応ではリンパ球増殖能が亢進した。これらの結果より、GVHD 発症初期には LC は表皮内でアポトーシスに陥らずむしろ活性化され、アロ反応性 T 細胞のさらなる活性化と、病状の悪化に関与することが推測された。

## 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、移植片対宿主病 (GVHD) における表皮ランゲルハンス細胞 (LC) の動態について解析したものである。この結果、GVHD の発症初期には LC は活性化しており、5 日目から急に数が減少し、LC の遊走の可能性を示唆している。この知見は、GVHD の発症における T 細胞活性化機構の解明に重要であり、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。